システムを作り、システムを動かす
－保育所保育士のエンパワメントのための事例分析シートの開発－

○　関西福祉科学大学　　氏名　得津慎子（002035）
谷向　みつえ（関西福祉科学大学・003405）、立花　直樹（関西福祉科学大学・007093）

キーワード：保育所保育士、ソーシャルワーク機能、事例分析シート

１．研 究 目 的

現代の保育所保育は、「すべての子どもの良質な成育環境を保障し、家庭における養育支援の充実を図る」（2008,保育所保育指針）ために「家庭や地域社会と連携をはかる」ことが基本とされている。保育士の専門性は主に教育・養護にあると考えられる一方で多様化・多問題化する保育ニーズに対応を迫られる現状から、現場の保育士は個別の問題に取り組んで「ソーシャルワーク」せざるを得ない場面も少なくない。ソーシャルワークの機能を意識化し、その視点やスキルを得ることはより円滑な保育業務につながるものと思われる。そのために本研究は、まずは現場でのソーシャルワークの必要性を明らかにし、その具体的な方策として、保育士が日常的な問題を対処するにあたって簡便に用いうる事例分析シートの開発を試みるものである。

２．研究の視点および方法

⑴　研究の視点　子どもや家族支援に関わる保育士が自信を持ってことに対処するようにエンパワメントする簡便なツールの開発を企図した。ツールを使用することによってセルフモニタリングや､スーパービジョンなどに際して自らの実践を総合的に振り返り、自らのストレングスにも気づくこと、そのツールを現場保育士との協働作業によって開発することに意義があると考えた。

⑵　研究の方法

①　事例分析シートの作成　保育所における困難事例を検討するに先立って､支援の過程での保育士・ソーシャルワーカー・他職種の視点、子ども・家族・保育所チーム･地域のアセスメントを明確化できるシートを先行文献などにより作成した。

②　事例分析シートを用いた困難状況検討会　２回

：対象者　A 市 B 地区担当保育士スーパーバイザー（以下 SV）（地域の保育所を巡回して困難事例についての SV を行う中堅クラスの保育士）各５名

：第２版の作成　共同研究者及び保育・社会福祉の研究者による分析・議論による

③　A 市地区担当保育士 SV 連絡会における事例分析シート第２版の説明会

：対象者　A 市地区担当保育士 SV３８名

：第３版の作成　第２版と同様の手順で第３版に改訂を行った

３．倫理的配慮

当学会研究倫理指針に則って、調査対象者やその地域を特定できないように匿名化し、対象者の同意とその団体の責任者から、調査や IC レコーダーによる録音、また研究結果の公表について承諾書を得た。本発表にあたっても、事前に内容を確認の上、承諾を得る予定である。事例分析シートや録音テープ、電子データは、個別の保管庫、単体のデスクトップＰＣにセキュリティを厳重にして保管し、所定の保存期間後にはすべての資料・データを痕跡が残らない形で破棄する。

４．研 究 結 果

②の困難状況検討会において、慢性的・長期的で複雑化した困難な状況を、「保護者との信頼関係」をよりどころに、担当保育士や保育所長、地区担当保育士 SV 等現場の保育士で抱え込んでいる実態の多くが浮かび上がってきた。また、事例検討シートの記入で、ソーシャルワーク機能について意識化するプロセスが、自分自身の対処をチェックするセルフモニタリング機能を持ったことが報告された。そこで、対処の過程においてソーシャルワーク機能を意識化できるようにシートに改良を加え、③の説明会においては、地域での「連携」を中心に、講義と事例分析シート記入の演習を行った。その結果として、従来の研修等を通して、（ⅰ）アセスメントや連携などについては、十分理解し、実践していること、（ⅱ）説明会を通してそれらの知識が実践的に明確になったというフィードバックを得た。新たな課題として、連携を「連絡」に留めない効果的な働きかけや、短期目標から長期目標など期間を意識して目標設定する必要性など浮かび上がってきた。

５．考 察

本研究は対象が A 市の公立保育所のベテラン保育士であるという点や、対象者数が限られているなどの限界があり、今後一層の調査を重ね、現場保育士のフィードバックを得ながら事例分析シートの改良を試み、普及をはかりたい。

⑴　働きかけが困難な子どもや家族への対処において、保育士やソーシャルワーカーなどそれぞれの専門職としての視点を持つこと、働きかけの展開過程の各段階などを明確に意識すること、などに対して事例分析シート記入が有用であることが明らかになったが、それらを可視化するより気軽に使いやすいシートへの改良が必要である。

⑵　困難な状況の中で、概ね保育所内の連携・協力によるチーム作りはできており、困難な個別の問題の対処に当たってどのように効果的に地域全体に働きかけていくかが今後の課題だと考えられる。子ども・保護者・保育者システム・地域システム全体で関わり合うシステム作りとそれを動かすというソーシャルワークの視点を持って、具体的な働きかけの技術を体得することが喫緊の課題であると思われ、そのためにも人と環境との相互作用の全体を見て、相互作用に働きかけていくソーシャルワークの視点が重要であると考えられる。